

水トラストニュース

2020.12 No.43



107.9.21
石原 伸

もくじ

木とのかかわりと仲間達1
ボランティアとは3
付け足しの考察5

木とのかかわりと仲間達

村越 久弥、 滋保里

今 ここ御嵩の山で木に寝てもらおうときに、物凄い緊張感を持ちながら伐倒をしている。

木に話しかけながら、周りの木にも相談をしながら、仲間に見つめられながら。

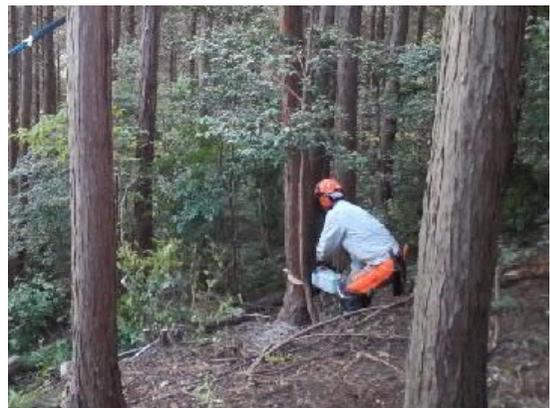
全身から汗が吹き出し、全力疾走でもしたような息づかいになりながら、掛り木しながら木が寝た後には、水でも浴びたかのような状態になる。だけど、疲れたから終わりとはいかない。汗をぬぐったら次の作業に取り掛からねば。でも疲れたままでは、怪我をするので皆から少し離れてコーヒーを口に含んで風を感じながら一休み、今日は御岳山が見えるだろうか。チェーンソーと風の音が入り混じる中さあ！もうひと頑張り、枝払いを鋸で頑張っている妻たちの元へ行こう。

ここ、みたけ・500万人の水トラストに妻共々お世話になる事になった切っ掛けはと思い返すと、2019年9月5日に発生した台風15号が千葉県内に大きな傷跡を残した、その災害復旧支援として富津市(ふつつし)災害ボランティアセンターのコーディネーターに参画させて頂いた事に遡る。富津市は千葉県南部に位置しマザー牧場、富津岬、鋸山など知られており、海と山々に囲まれた所です。そこへ台風の直撃があり、家屋の屋根が壊され、木々がなぎ倒されて山間部の電線が寸断され停電が長期に及んだ、甚大な被害状況であった。私が行った時には自衛隊、大勢のボランティアの方々が復旧作業に携わっていました。しかし、場所によっては木々が道を閉ざし、車両の通行もできない場所が多くありました。木々を処理できる重機が入れない所は、チェーンソーと軽トラでの人海戦術しかありませんが、チェーンソーを持っている方、使える方も少なく、安全教育を受けていないといけない、などの制約もあり作業が思うように進まない、地団駄を踏む思いで過ごすしかなかった。知り合いを頼りチェーンソーを使える人を探したがダメでした、イライラするけど手も足も出ない想いに苛まれ、ヨシ！俺がまず使える様になれば1人工は賄える、自分の住まいの豊田市でも山が有るので同様の事態も考えられる。チェーンソーを使える様になるしかない！！と安易に心に決め、富津でお世話になった仲間チェーンソーを使えるようになって戻ってくるから、と言い残しての帰宅になったわけです。そこから、チェーンソーの講習会や、作業を出来る所を隈なく探したが、中々見つかりません。会社のボランティア情報に、なんと『みたけ・500万人の水トラスト』の案内があり、内



容を読むとチェーンソーの作業の写真があり『ナタや斧、チェーンソーの使い方を覚えたい』の文
があり、これしか無い！！と口にして、早々に申し込みを11月24日に済ませ12月14、15日
で初参加した事が昨日の様に思い出されます。

初めはとにかくチェーンソーを使いたいとの思いが強く、がむしゃらにやりましたが、これはなかな
か難しいし伐るだけではなく、他にやる事も一杯あるなあと感じたのと、水トラストの話をいろいろ聞き
興味がわいたこと、そして此処には自分の居場所がある(居心地が良い)と感じたので、活動を続け
てみようと思い妻にも誘いを掛けて、嫌がるのを無理やり連れて来たら妻も居心地が良かった様
で、二人での参加を続けています。人と会話をするのが下手なので喋らずに過ごす時間も有りますが、
必要に応じて話せば許してくれる所も居心地の良さなのです。そして土曜日は孫も一緒に来る
ようになり皆さんのお世話を受けながら木の中で過ごす時を楽しんでいます。



20年はコロナの影響で色々な活動が制限をされ、チェーンソー作業の為に5月に受講を申し込
んでいた『伐木等の業務』講習が中止となり、やっと12月に受講ができるようになり念願のチェー
ンソーと装備を購入、縁があって参加した豊田市森林組合主催の『間伐ボランティア初級編』の実践で
マイチェーンソーを使用中に、なんとガイドバーがバーンと外れて落下。農機具店で購入時に試運転
もしていただき万全のはずが？横で見ていた仲間もビックリ。ナットが締っていなかったのか、緩んだ
のか不明ですが点検をちゃんとしなさい、と木が注意をしてくれたのだろうと想っています。そして
11月29日には富津市の鋸山復興プロジェクトボランティア活動で倒木、雑枝伐採の手伝いに妻と
二人で行ってきます。富津のボランティア仲間も参加するので作業の後は楽しい語らいの時間も持
てる様です。

今私は、ここ御嵩の山で初のマイチェーンソーで伐倒する所を仲間達に視られ緊張、緊張で身体
はガチガチ、汗だくに成りながら木に静かに寝てもらえるようにチェーンソーを操っています。

これからも色々な技能と知識を磨いて健全な山造りの手助けが出来る様に、緊急時にも対応出来
るように。この木たちと妻と仲間達と、どれだけ年輪を重ねられるだろうか。木を通して人生観が変
わり、仲間が増え、今ここに居ることに感謝しています。

2020. 11. 25

ボランティアとは

さくら 小枝

水トラストは、団体メンバーがボランティアで理事、会計などの役をやって成り立っている。毎月の山仕事は、メンバーとそこにまた当日ボランティアを募って行われている。どこにも給料は発生せず、作業は楽しく、でも真剣に山は整備されていく。チェーンソーの作業、運ぶ作業はケガにもつながるから。ランチの時間は、自己紹介をして、興味深いボランティアの方に出会える。子供たちが来ると、山を自由に走り回り、楽しんでいる。

・・というのがボランティアだと思っていた。(そういう私はここ数年作業をやってない。)

これとは別に、私は名古屋千種区社会福祉協議会*が運営するディサービス施設で調理ボランティアをしている。もう4年たった。

キッチンのガラス窓の向こうには施設利用者と職員が見える。利用者がお茶を飲み、お風呂、塗り絵などしている間に、5人で昼食30人前後分を12時に合わせて作る。その5人も固定メンバーは3人くらいで、掛け持ちして週2回出る人もいる。私以外のメンバーは70歳代後半に近い。動きも遅い、重いもの持てない。メニュー決めから仕入れ、毎回1汁3菜とデザートまで作る。9時半から立ちっぱなしで後片づけまですると13時を過ぎる。

魚なら骨を丁寧に抜き、味噌汁はカツオからダシをとる。冷凍食品などでできあいのものは絶対使わない。主婦のこだわりがある。かぼちゃを切る力仕事、大きな鍋を持つのは若い私。切るものは全員でやる。それから自然と役割が決まり、私は酢の物、おひたし、デザート係になっている。

本日の品と味噌汁、ごはんをそれぞれのトレーに載せて、11時45分には施設側に渡す。すると職員が何人かの食事の盛り付けを減らして、別皿によける。(皆さん同じ金額、500円を支払っているのに。)それから配膳される。職員のうち4、5人は500円払ってこの昼食を食べることもある。

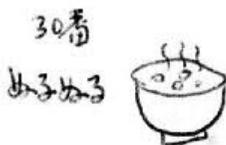
私たちも作ったものを500円払って食べる。30分ほど会話を楽しみながら、味も見た目も楽しむ。贅沢な食事だと思う量と質だ。この労力は利用者の栄養と楽しみを作っているのだから、料理好きの私には結構楽しく、やりがいがある。

だが、有給の職員からボランティアに、けっこうな要求がくる。

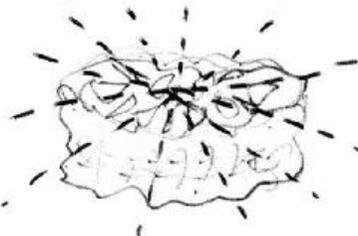
- ・祝日も休むな。(調理をせず市販の弁当にしてもいいが、味噌汁、果物をつける。つまり後かたづけと洗い物がある。)
- ・年に2回バイキングをしろ。(30人のバイキングはほぼ50人分作るということ。)
- ・冬2回鍋をしろ。(鍋7つ分の野菜切り、肉団子など仕事が増える。)
- ・その月に誕生会があるときは、デコレーションのケーキを最低4台出せ。(うち1台は職員とボランティアで分ける。ある日、その1台を職員・ボランティア12人に分けることになった。一切れが細くなるので、私は台の中間にクリームを挟むのではなく、台を半分の高さに切ってクリームと果物をのせ

無理です

① みそ汁 アツアツ30人分? ② 18cm x 5cm T-7を12等分できる?



$18 \times 3.14 = 56.52 \text{ cm}$
 $56.52 \text{ cm} \div 12 = 4.71 \text{ cm/人}$ 、でも
実際は7mm、果物か6mmで、倒れる。



て職員に出した。「利用者と同じものにしろ」と言われた。))

- ・市販の「ほんだし」を使え。(丁寧にカツオからダシをとっているのに。)
- ・味が薄い。熱々を出せ。量が少ない。(職員は利用者の食事を減らしているのに。)
- ・少し多く作って、残ったものは職員に渡せ。(残ったものや、利用者の食事から間引いた分は、たぶん職員が(お金を払っていない職員も)、食べている。)

調理仲間は、そんな要求に逆らうことはない。きちんと応えるまじめなボランティアばかりだ。

年に1度、春の決算報告の時、弁当が出る。その時、施設の課長という人も一緒に食べる。すごく軽い人で、「給料が安い、小遣いが少ないから、ふだんはボランティアが作る昼食が買えない。」とニコニコして話す。私たちは“安い”という給料さえもらってない。課長は何人で何を作っているのかも知らない。今年はこのボランティアが始まって20年だという。「5年目は金一封出ました。」と長年やってきたボランティアの方が言うと、「予算がない」という。

ボランティアとは自主的に、時間を使って、お金をもらわずにやること。できる時に、できることをやること。食事を食べてくれる人のことを考えてやっていることで、有給の職員の要求に答えることではない。職員の要求であれば契約であり、命令であり、そこには給与が発生することになるはずだ。(暇人のお楽しみ、時間つぶしくらいに思われているのではないのか。)

追伸、とても驚く内容です。

今回コロナで4月半ばからボランティアも休みとなった。6月に再開。その後、3月から4月半ばまでの間に10回出た人は、給付金を申請すると言う。給料0円のボランティアでも申請すれば5万出る!ということだ。私はその期間に9回しか出なかったのももらえなかった。一回少ないと、その5万円がゼロになる。それから私は、厚生省と労働相談室に問い合わせた。「ボランティアには給付金は支給されない。それは詐欺行為。警察に言った方がいい」という答えだった。

*<https://www.chikusa-shakyo.jp/day-service/>

付け足しの考察

話を簡単にするために、AさんとBさんの二人がある活動をしているとします。AさんはX市の職員で、職務の一部としてその活動をしています。したがって、その活動に対して給料という報酬が支払われています。一方のBさんは、X市の募集に応じボランティアとしてその活動をしています。

1 X市は財政難で、活動の必要性は認識しながらも、そのために人を雇うことができず、ボランティアをたのむことにした。

このときBさんのボランティア活動は、必要性は高いし意義あるものと考えられるでしょう。(災害救助のボランティアも、このパターンになると考えられます)

2 X市は、じつは予算に困っておらず、人を雇ってあたらせることができるにもかかわらず、お金をケチって、ボランティアを募った。

このときは、はたしてBさんのボランティア活動が意義あるものと言えるかどうか？

そしてこの1と2は区別がむずかしいこともあります。X市全体としては予算は不足していないが、市長の方針でその活動分野(たとえば福祉、あるいは環境)に回す予算をケチっている、というような場合です。このときは、担当部署だけを見れば上の1のケースですが、市全体を見れば2に相当することになります。

さらに、こんなケースも考えられます。

2' (予算潤沢な)X市の職員のAさんは、指示を出してBさんに活動をやらせている。自分はBさんの仕事ぶりを見ているだけで、Bさんの作業に問題があれば注意する。

お金をもらっていないBさんが働き、お金をもらっているAさんは見ているだけ。こうなると、Bさんの活動の意義どうこう以前に、Aさんの姿勢を問題にしくなります。

しかし一方で、ボランティアには、やっている人が純粹にその活動を楽しんだり、活動から何かを学び取ったりする、という側面もあります。料理が好きで調理ボランティアをやる、自然が好きで森林ボランティアをやる、その場での仲間との交流を楽しむ。ボランティアをすることで自分自身得るものがあるから、必要性や意義のあるなしに関係なく、活動に参加したいと思う。ボランティア活動にはたいていそういう側面がありますし、それが全くなければ、おそらく長続きすることはできないのだらうと思います。

しかし、そうであっても、もし次のようなことがあったらどうでしょう。

2'' 2'のケースで、AさんがBさんに対しこう言う。「この活動でX市はあなたにやりがいを与えてあげている。ありがたいと思って、その活動をやりなさい。」

このような構図は現実に存在します。東京オリンピックのボランティアです。オリンピック組織委員会には、メディアやスポンサー企業から莫大な資金が流れ込み、税金も投入されます。つまり予算は潤沢です。にもかかわらず、一生に一度の貴重な体験をさせてあげる、というたい文句でボランティア

を募り、大勢の人が応募しました。(しかも実際に人を使うのは、私企業(電通のような)になるとも言われています。私企業が、ボランティアを使い、経費を浮かせ、その分利益を増やす・・)

話を Aさんと Bさんのケースに戻すと、2のような場合、X市の姿勢が変わり、福祉なり環境なりにちゃんと予算を回すようになることが、一番基本的な解決と言えるでしょう。ボランティア活動は公に対するそのような働きかけも含むべきだ、と理屈の上ではなりません。しかしそうはいつでも、今日の昼食を作る、あるいは目の前の木を倒すことで手いっぱいなのが実際のボランティアの姿です。行政への働きかけなんて、どうやっていいかわからない。ただ、少なくとも2'や、まして2''の状況は避けたいものです。BさんがX市の方針をすぐに変えることはなかなかできませんが、Aさんと語り合いAさんの姿勢を変えることはたぶん不可能ではないでしょう。そしてそれが、X市を変える第一歩になる・・・といいのですが、さて、どうでしょう。

市村正也

本間龍「ブラックボランティア」角川新書(2018)

猪瀬浩平「ボランティアってなんだっけ？」岩波ブックレット(2020)

アルバムより



焼いた炭の取り出し
2020年6月



雨漏りがひどくなってきた小屋の
屋根補修のための足場づくり
2020年11月

気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき： 毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所： 御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間： 午前10時（日曜日に日帰りの方も同じ時間に中公民館にお越し下さい）

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

申し込み・お問い合わせ先：TEL & FAX 052-735-5453（市村）

e-mail: mitake500npo@yahoo.co.jp

参加者の服装・持ち物：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物、弁当、水筒

表紙の絵は早川しょう子さん作



今年の「環境デーなごや」はオンラインで開催されました。
水トラストもこの動画を”出展”しました。
<http://www.kankyoday.com/chuogyoji/>

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曽川水トラスト

〒464-0850 名古屋市千種区今池3-12-3

丸美タウンマンション今池205（←2020年11月より）

郵便振替00840-5-137369（←2018年5月より）

URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp